

2017年8月1日から2019年3月31日までに

当センターの6階病棟へ入院・転棟した際に

内服している薬が8種類以上であった患者さんへ

当センターでは下記の臨床研究を実施しています。この研究の詳細についてお知りになりたい方は、問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の情報等をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

研究の名称

高齢者専門病院における減薬と再入院率の関連について

研究の対象

2017年8月1日から2019年3月31日までに当センターの6階病棟へ入院・転棟した際に内服している薬が8種類以上であった患者さん

研究の期間

倫理審査委員会承認後～2024年3月31日

研究の背景・目的

内服薬が多い患者さんはそうでない患者さんと比較して、薬の副作用が起こりやすく、飲み間違えにもつながることが報告されています。

当センターでは、2017年よりポリファーマシー（内服薬が8種類以上）の患者さんを対象としたカンファレンスを行い、多職種間で処方についての検討を行ってきました。今回、上記対象となった患者さんについて、入院中に内服薬を減らすことが再入院率へどのような影響を与えるのか、調査することを目的としています。

研究の方法

入院時から退院時までに内服薬が減った患者さんとそうでない患者さんの再入院率について、カイ二乗検定を用いて検証します。また、再入院された患者さんにどのような特徴や傾向があるのか、多重ロジスティック回帰分析を用いて検証します。当研究では、6階病棟への入院日数が7日以内の患者さんは除外されています。

研究に使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、転倒歴、担当主科、入退院日、6 階病棟への転棟日、当センターへの再入院日、入院・転棟・退院時の内服薬の種類と服用回数、退院先、入院の契機となった主疾患 等

研究組織

東京都健康長寿医療センター

薬剤科：○片原憂斗、小原朋也、瀧川美和、大堀薫、島崎良知

高齢診療科：岩切理歌

循環器内科：石川譲治

（○：研究責任者）

資料の入手または閲覧、開示

本研究に関するご質問などありましたら下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で研究計画書および関連資料を閲覧することが可能ですのでお申し出ください。

また、試料・情報を当該研究に用いることについて、患者様もしくは患者様代理人よりご了承いただけない場合には研究対象とは致しませんので、お手数ですが下記連絡先までお申し出ください。いかなる場合にも患者様へ不利益が生じることはありません。

お問い合わせ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

連絡先：薬剤科 片原憂斗（TEL：03-3964-1141 内線：2018）